



NEWS LETTER

International Institute for Advanced Studies

vol. **81**

April
2012

報告 1

第70回理事会・63回評議員会の開催（3月21日）



立石義雄 国際高等研究所理事長

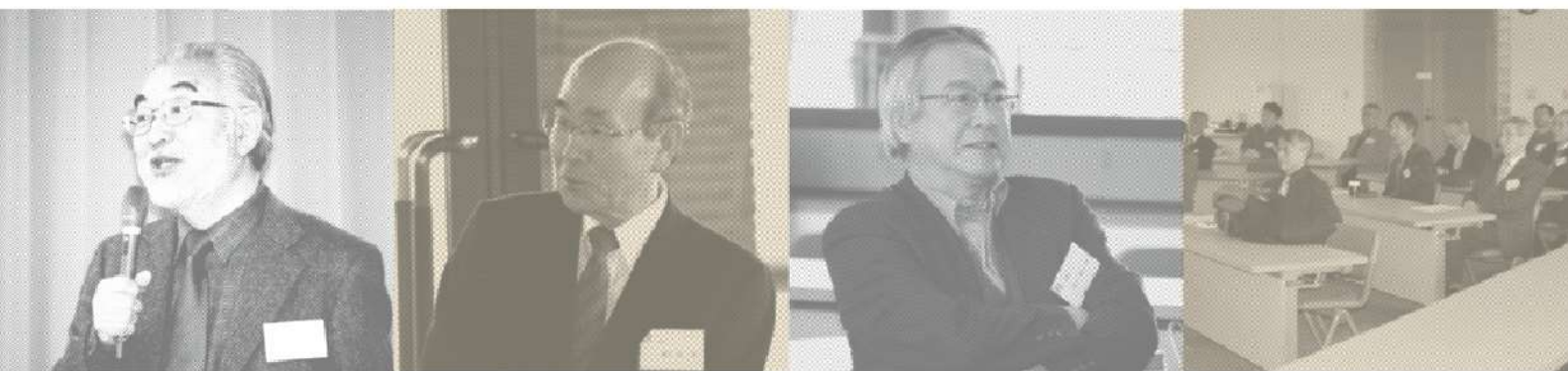
尾池和夫 国際高等研究所所長

岡田登史彦 ムーンバット株式会社相談役

会議風景

報告 2

学術懇談会の開催（3月3日）



尾池和夫 国際高等研究所所長

磯貝彰 奈良先端科学技術大学院大学長

野口誠之 奈良女子大学長

講演会風景

CONTENTS

紹介 *Introduction*

研究プロジェクト：心の起源 06-07

紹介 *Introduction*

高等研研究成果報告書 3 編の刊行 08-10

事務局だより *Secretariat*

新年度を迎えるにあたり 11

お知らせ *Information*

研究活動実績・就業カレンダー 12





理事会・評議員会

報告

第70回理事会・ 第63回評議員会の開催 (3月21日)

3月21日に第70回理事会及び第63回評議員会を開催し、2012年度（平成24年度）事業計画、収支予算及び公益財団法人移行後の定款の承認、理事、監事及び評議員の選任が行われました。

1. 2012年度事業計画案の承認

(1) 基本方針

2012年度（平成24年度）は本法人にとって大きな転換点となる公益財団法人への移行を実現する重要な年度となります。

公益財団法人への移行を踏まえ、事業内容においては設立時の基本理念「人類の未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する…」のより具体化を目指し、「新たな学術の芽を見つけ、これを育てる」べく、「学術における異分野研究者の交流促進と新視点での問題発掘に関する研究事業」「学術における先端分野の問題点の発掘と今後の展望に関する研究事業」など主軸とすべき研究事業を明確にし、それに沿った新たな研究プロジェクトの設定や、高等研カンファレンス・レクチャーの継続的な開催を実行します。

また、法人運営にあたっては、「意思決定と、運営の透明性・公正さが図れる法人統治」の仕組みと体制整備を進めると共に、より高レベルの事務機能の発揮を目指し、事務局の再編と制度改定を実行します。

(2) 事業計画の骨子

1) 事業立案・企画・推進体制

昨年度よりスタートした正副所長を含む8名のメンバーによる「研究企画会議」での研究プロジェクトの立案と選定、高等研カンファレンスに係るテーマ設定と、その傘下の「研究推進会議」による実行計画の具体化、活動推進ならびに評価をより強力に実行します。

2) 2012年度研究プロジェクト

公益財団法人移行後の新定款に定めた「学術



左より：西村専務、立石理事長、尾池所長

における異分野研究者の交流促進と新視点での問題発掘に関する研究事業」「学術における先端分野の問題点の発掘と今後の展望に関する研究事業」に基づき、自然科学と人文・社会科学の分野を超えて大きなインパクトを与え、新しい学術上の課題が生まれることが期待される、次の6研究プロジェクトを主軸事業として推進します。

- ① 「意識は分子生物学でどこまで解明できるか？」(2010年度開始、第3年次)
- ② 「心の起源」(2011年度開始、第2年次)
- ③ 「『ケア』からみた社会保障の新たな展望」(2011年次開始、第2年次)
- ④ 「老いを考える」(新規)
- ⑤ 「ゲノム工学とイメージングサイエンスに基づく生命システム研究の新展開」(新規)
- ⑥ 「我が国の学術研究の現状の解析と将来のあり方に関する考究とアカデミアへの提言」(新規)

また、これらに加え、2010年度からの継続4研究プロジェクト及び2012年度からの新規1研究プロジェクトも実施します。

3) 高等研カンファレンス・高等研レクチャー
昨年度は新たな取組みとして「各分野の最先端研究者を招へいし、国内外へ広く情報発信」してゆく取組みとして「高等研カンファレンス」を開催し、参加された研究者から高い評価をいただきました。

2012年度には、その第2回として、「心の進化的起源」をテーマとして、海外の著名な最先端研究者も招へいし、12月3日(月)～6日(木)の4日間に渡って開催します。また、その中から講演者を選んで、研究者、学生、市民を対象



に「高等研レクチャー」を12月8日(土)に東京大学にて開催します。

この「高等研カンファレンス」「高等研レクチャー」は、主軸研究プロジェクトのひとつである「我が

国の学術研究の現状の解析と将来のあり方に関する考究とアカデミアへの提言」とともに、今後とも継続的に実施することにより、国内外への情報発信の強化と共に、高等研の国際的な存在感の向上に努めます。

2. 2012年度収支予算案の承認

(1) 2012年度財務運営方針

事業活動収入については、資産運用収入で運用資産額の減少、高利回り海外債券の償還に伴う利回り低下、及びドル安によるドル建て債券の利息減少などにより、前年度予算から減少を見込んでいます。

事業費では、法人目的に則り絞り込んだ主軸研究プロジェクトと高等研カンファレンス・レクチャーへ事業費支出を集中することにより、事業費の拡大を押さええます。他方、管理費については公益財団法人への移行後を念頭に置いた事務機構の再編、機能強化を図るための人件費増、施設設備の経年劣化対応のための修繕費増を想定しています。

(2) 2012年度収支予算

①事業活動収入総額

6,530万円(前年度予算比400万円減)

②事業活動支出総額

19,528万円(前年度予算比130万円減)

③事業活動収支差額

△12,998万円(前年度予算比270万円減)

2012年度の最終収支は、事業活動収支差額に修繕積立金・退職給付引当金等を加減し、結果として、研究事業推進基金取崩しは、前年予算と同規模の13,166万円となる予定です。

3. 公益財団法人移行後の定款等の承認

2013年4月1日を目標として公益財団法人への移行登記を目指し、内閣府への移行申請を行います。これに伴い、現法人の寄附行為に代わる新定款が承認されました。新定款では、高等研の存在意義が従来以上に明確となるよう法人の「目的」を次のよう定めています。

「この法人は、人類が直面している諸課題に対処するため、産・学・官の協力のもと、これら諸課題の予見と解決策を見出すための学術研究を進めるとともに、新たな知見の獲得に向けた学術的探究に取り組み、研究萌芽の発掘と新たな学問領域の開拓を行い、もって学術研究文化の発展に寄与することを目的とする。」

また、役員報酬規程、所長選考委員会規程などの改訂も併せて承認されました。



4. 理事・監事及び評議員の選任

理事・監事及び評議員が2012年3月31日に任期満了により改選となり、役員及び評議員の選出が行われました。

理事会は、理事長の下に研究総括担当専務理事(研究所長)、法人運営担当専務理事、事務機構を統括する常務理事(事務局長)、および2名の研究推進担当理事の計6名と事業監査担当及び会計・財務監査担当の2名の監事で構成します。



理事会・評議員会

第70回理事会・第63回評議員会の開催 (3月21日)

報告

評議員には、昨年、選任された新法人移行後の最初の評議員の方々に、現法人最後の評議員として就任いただきます。2012年4月1日付役員及び評議員は下記のとおりです。(◎印の方が新任)

(理事6名 任期：2012年4月1日～2014年3月31日)

- 理事長
立石 義雄 オムロン(株)名誉会長、京都商工会議所会頭
- 専務理事
尾池 和夫 (財)国際高等研究所長
- ◎岡橋 誠 オムロン(株)取締役室参与
- 常務理事
◎貝田 辰雄 (財)国際高等研究所事務局長
- 理事
◎天野 文雄 (財)国際高等研究所副所長
◎志村 令郎 (財)国際高等研究所副所長
- 監事 (2名 任期：2012年4月1日～2014年3月31日)
高橋 一浩 有限責任監査法人トーマツ パートナー

- ◎堀田 凱樹 東京大学名誉教授
- 評議員 (10名 任期：2012年4月1日～新法人移行登記日の前日)
- ◎磯貝 彰 奈良先端科学技術大学院大学長
- ◎大崎 仁 人間文化研究機構機構長特別顧問
- ◎岡田 清孝 自然科学研究機構基礎生物学研究所長
- ◎柏原 康夫 (公社)関西経済連合会副会長
- ◎立本 成文 人間文化研究機構総合地球環境学研究所長
田中 成明 (財)国際高等研究所副所長
- ◎西村 隆至 近畿日本鉄道(株)執行役員
- ◎丸野 進 パナソニック(株)先端技術研究所技監・理事
- ◎山内 修一 京都府副知事
- ◎吉田 多見男 (株)鳥津製作所技監・顧問

今回の改選で退任された理事、監事及び評議員の方々です。

- 副理事長
柏原 康夫 (公社)関西経済連合会副会長
矢嶋 英敏 (株)鳥津製作所相談役・(社)京都工業会顧問
- 専務理事
西村 耕一 オムロン(株)取締役室参与
- 理事
荒井 正吾 奈良県知事
石川 博志 関西電力(株)顧問
磯貝 彰 奈良先端科学技術大学院大学長
位高 光司 京都経営者協会会長
大崎 仁 人間文化研究機構機構長特別顧問
大竹 伸一 (社)関西経済同友会代表幹事
川村 誠 京セラ(株)会長
佐藤 茂雄 大阪商工会議所会頭
佐藤 行則 (財)国際高等研究所事務局長
田代 和 近畿日本鉄道(株)相談役
西口 廣宗 奈良商工会議所会頭
長谷 幹雄 (社)京都経済同友会代表幹事
濱田 純一 東京大学総長
松下 正幸 パナソニック(株)副会長
松本 紘 京都大学総長
山地 憲治 (公財)地球環境産業技術研究機構研究所長
山田 啓二 京都府知事
鷺田 清一 大阪大学前総長
- 監事
國部 毅 (社)大阪銀行協会会長
高崎 秀夫 (社)京都銀行協会会長
高橋 一浩 有限責任監査法人トーマツパートナー
- 評議員
天野 文雄 (財)国際高等研究所副所長
石田 明 大日本スクリーン製造(株)会長
犬伏 泰夫 (株)神戸製鋼所相談役
井上 礼之 ダイキン工業(株)会長
井上 琢智 関西学院大学長
猪木 武徳 国際日本文化研究センター所長

- 宇野 郁夫 日本生命保険(相)相談役
- 江島 義道 京都工芸繊維大学長
- 大谷 實 (学)同志社総長
- 大橋 忠晴 神戸商工会議所会頭
- 岡田 登史彦 ムーンパット(株)相談役
- 奥 正之 (株)三井住友フィナンシャルグループ会長
- 奥野 武俊 大阪府立大学長
- 河井 規子 木津川市長
- 川口 清史 (学)立命館総長
- 金田 章裕 人間文化研究機構長
- 楠見 晴重 関西大学長
- 小塚修一郎 住友金属工業(株)副社長
- 佐藤 禎一 国際医療福祉大学大学院教授
- 佐野精一郎 三洋電機(株)前社長
- 柴田 稔 東洋紡績(株)名誉顧問
- 志村 令郎 (財)国際高等研究所副所長
- 白石 達 (株)大林組社長
- 須藤 健一 国立民族学博物館長
- 清家 篤 (学)慶應義塾長
- 千 玄室 茶道裏千家前家元
- 竹中 統一 (株)竹中工務店社長
- 竹葉 剛 京都府特別参与(京都府立大学前学長)
- 玉越 良介 (株)三菱東京UFJ銀行特別顧問
- 塚本 能交 (株)ワコールホールディングス社長
- 鳥井 信吾 サントリーホールディングス(株)副社長
- 中村 満義 鹿島建設(株)社長
- 西澤 良記 大阪市立大学長
- 野口 誠之 奈良女子大学長
- 林 守也 (株)クボタ顧問
- 福田 秀樹 神戸大学長
- 前川 重信 日本新薬(株)社長
- 松本 正義 住友電気工業(株)社長
- 村上 仁志 住友信託銀行(株)特別顧問
- 山岸 久一 京都府特別参与(京都府立医科大学前学長)
- 横山 進一 住友生命保険(相)会長

(敬称略・50音順)



學術懇談会

學術懇談会の開催(3月3日)

3月3日(土) 本研究所で學術懇談会を開催しました。

本研究所では、今年度は尾池所長の下で定められた「新たな學術の芽を見つけ、それを育てる」という目的の実現に向けて、研究事業内容とその企画・推進体制を大きく転換させる年と位置づけています。そこで、今までに本研究所の事業に関わってきた方々と、これからの高等研のあるべき姿について意見交換の場を持つことが有効と考え、學術懇談会を開催することとなりました。

当日は、研究推進会議委員、研究代表者、チーフリサーチフェロー、理事、評議員、及び、歴代のフェローの方々、総勢20名が一堂に集まりました。

まずは、尾池所長が「東日本の巨大地震に学ぶ」という演題で講演をおこないました。高等研の事業について紹介をした後、2011年3月11日に起こった東日本大震災からほぼ1年という節目の時に、これから起こるであろう巨大地震にどう備えるべきかなどのお話があり、皆さん熱心に聞き入っておられました。

講演会終了後の懇談会では、尾池所長による開催の挨拶に続いて、巽友正先生(京都大学名



尾池所長・講演会の様子

誉教授、1994年10月～1996年9月高等研副所長、1998年度高等研フェロー) から乾杯のご挨拶を頂きました。

懇談会中は、和気あいあいとした雰囲気の中でも、高等研の事業についての談義が真剣におこなわれ、「他機関や大学などと広く連携をとるべきでは」などの熱いメッセージをいただきました。

過去から現在において本研究所に携わってこられた方々が意見交換することは大変貴重な機会であり、今後、より一層の躍進を目指す本研究所にとって有意義な一日となりました。



巽友正先生のご挨拶



懇談会の様子



研究プロジェクトの紹介

研究プロジェクト「心の起源」

紹介

(2011～2013年度・1年次)

研究代表者：松沢 哲郎 国際高等研究所学術参与・京都大学霊長類研究所教授



日本語のKOKOROは、TSUNAMI, KAWAIIなどと同様に、そのままの表記で通用する世界語の資格がある。なぜなら、対応する英語を探そうとすると、心の多様な側面を別の用語で記述しなければならない。英語のmind、spirit、heart、emotion、will、consciousness、awareness、feeling、compassion、そのすべてを包括して1語で表したものがKOKOROだといえる。

心と脳が密接な存在であることは自明だ。人間の心を担う器官としての脳の働きについて、神経科学の進歩は著しい。心ないし意識と呼ばれるものの脳内機構とその分子的なメカニズムが急速に解明されつつある。心を担う器官としての脳を、その神経細胞や、さらにはそれを介する神経伝達物質や分子的機構といった要素に還元して理解しようとする試みである。

それに対して、対象を理解する手法としては非還元論的な手法もある。対象をより大きな枠

組みの中で捉える視点である。たとえば、心の働きについてごく単純な問いを建ててみよう。「愛する」「信頼する」「助ける」「協力する」あるいは「ねたむ」「うらやむ」「裏切る」、そういった2人の人間のあいだに生れる心の働きがある。背景には、それを支える人と人とのあいだのきずながある。親子、夫婦、きょうだい、といった関係だ。さらにはそれを包む社会があり、文化があり、生態学的环境がある。

心の働きそのものの科学は、1970年代以降は、認知科学(Cognitive Science)と呼ばれるようになった。認知科学の成立には、神経的基盤の解明も重要だが、より大きな枠組みとしての社会的基盤の研究が必要不可欠である。また、おとなの心と子どもの心は当然違うので、発達の基盤の解明が必要だ。

さらに、人間の心はその体と同様に進化の産物なので、進化的基盤の解明も重要だろう。すなわち、心という研究対象の解明には、神経・社会・発達・進化といった基盤の解明が不可欠だといえる。



Ai-Ayumu-Matsuzawa triadic relationships



Bossou Jire family

ロボティクス（ロボット科学）の視点も重要だろう。人間のようにふるまいながら人間ではない。認知ロボティクスと呼ばれる新興分野も取り入れる。さらには、科学とは一線を画する宗教についても注目する。それが何であれ、人間の心に関心を寄せる営為に目を向けて、心の起源への全体的アプローチとしたい。

「研究萌芽の創出、新領域の開拓を行い、もって学術の発展に寄与する」ことである。

KOKORO を世界語にするという視点から、心と脳の問題に新しい息吹をもたらしたい。本研究プロジェクトは2011年度（平成23年度）に発足して高等研で3回の研究会をもった。なお、2012年（平成24年12月）には本研究プロジェクトが中核となって、第2回の高等研カンファレンス・高等研レクチャー「人間の心の進化的起源」を企画している。

昨年末に開催された第1回は、「神経科学の最前線：脳からこころへ」と題されたものだった。異なる方向からのアプローチをとる両者が相互補完的に連携し、心と脳の研究に新たな展開をもたらすよう努力したい。





高等研研究成果報告の紹介

高等研報告書 3 編を刊行

紹介

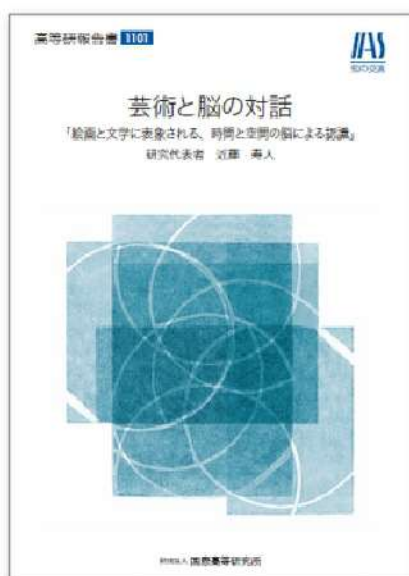
2011年度下期分3編の報告書を刊行しました。いずれも2008から2010年度まで実施した高等研プロジェクトの研究成果を取りまとめたものです。報告書に関するお問い合わせ及び申し込みは、(財)国際高等研究所事務局・学術出版担当まで

TEL : 0774-73-4000 FAX : 0774-73-4005 E-mail : book@iias.or.jp

詳しくは、<http://www.iias.or.jp/academic/report.html>に報告書サンプルのpdfをご覧ください。

紹介① No1101

芸術と脳の対話「絵画と文学に表象される、時間と空間の脳による認識」



(本書「はしがき」より転載)

芸術のはじまりは、人の脳(心)による世界の認識を表現したものです。また芸術への感動には、脳(心)のさまざまな働きによって認識されたものと、それらに対する興奮が複合されています。本書が掲げる「芸術と脳の対話」は、このことを指すとともに、それには芸術の研究者と脳研究者との対話という意味も込められています。その対話から、芸術を通して、脳(私たちの心)の働きを理解する新しい道が開かれるのではないかとの期待です。

芸術は、脳の世界認識と共感の発露であるという考えのもとで、脳研究者と芸術の研究者とが集まって両分野の研究の新しい発展を目指す研究会が、国際高等研究所で組織されました。

原初的な世界の認識をさらに探求するために、原始仏教や古典ヘブライ語文献の研究者もお招きしました。研究会の議論の俎上に供された話題はどれも、芸術の立場からも脳の立場からも新鮮で、聞くものをわくわくと興奮させるものばかりでした。芸術を通して、脳(私たちの心)の働きを理解する新しい道も、おぼろげながらも見えて来たと思います。その研究会での発表や議論の内容をもとにして、各々の方に読み切りの掌編をご執筆頂き、研究会の報告をかねて一巻にまとめました。

おのおのの掌編を三つの部に編集し、そして読者への道案内に短い扉書きをつけてはいますが、どの章を入り口にして読んで頂いても大いに楽しんで頂けるでしょう。読者の方々に、それぞれの論考の斬新さと鋭く深い洞察を堪能していただくとともに、本書一巻としての、芸術と脳(私たちの心)の働きの関係についての問題提起を感じて頂ければ幸いです。



- ・研究代表者：近藤 寿人
大阪大学大学院生命機能研究科教授
- ・研究年度：2008～2010年度
- ・書籍版：本文頁数：184頁
- ・価格：2,900円(税込)
- ・ISBNコード：
978-4-906671-84-6



紹介② No1102

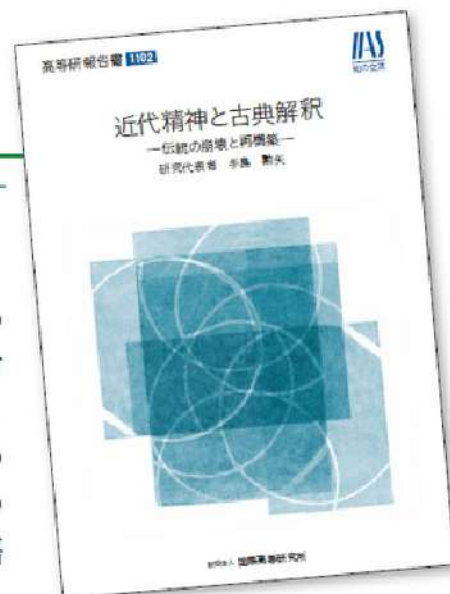
近代精神と古典解釈—伝統の崩壊と再構築—

19世紀は「科学 (Wissenschaft)」の時代として知られ、その時代の合理主義と実証主義の空気を吸いながら、近代的な西洋古典学と聖書学は、古典の読み方を革命的に変革させた。その近代古典学の「科学」精神について尋ねる私たちのプロジェクトは、具体的には、聖書でもホメロスでも似たようなテキスト分析論を発達させた近代の古典研究の合理性に疑問を呈したイタリアのユダヤ学者ウンベルト・カスト (Umberto Cassuto: 1883-1951) の指摘を土台にして、近代古典学の過去と現在について、また古典研究の可能性と限界について、海外の一流の聖書またホメロス研究者を招待し、彼らと日本の西洋古典と聖書学の研究者が意見交換をして学び合うことを志した。この共同で古典研究を反省する志は、世界でも類の無い試みとして、海外からの参加者にも高く評価され、全面的な支持と協力を得ることができた。また、それまで科研による予算的な棲み分け状況の中で殆どお互い面識のなかった国内の西洋古典と聖書学の研究者が《一つ心で》3年間の時間を共有できたことも、密かに、私たちが自負してやまない所である。

しかし、報告書の構成を定め、秋の所長会議の審査に向けて、原稿執筆を進めていた最中、東日本大震災が起きた。メンバーの数名はその影響を直接的に被り、その中で、海外の研究者からも心のこもった数々のお見舞いや励ましの言葉を頂いた。だからこそ、古典テキストの文字の意味を考えるプロジェクトとして、果たして、震災以前と同じ変わらない報告書を出すべきかどうか——確かに、不動心も知恵ではあるが——について、編集委員たちは悩み考え、その結果、プロローグとエピ

ローグという形で、現在の危機の中で古典学の心（また人文科学の批判精神）の意義を、英語と日本語で、記録し発信することを決めた。今振り返ると、この修正によって、むしろ近代古典学の科学意識を批判・検証することを意図したプロジェクトのユニークな問題意識がより明確になったと思う。

震災後の日本の人々のサイエンスに対する大きな期待に応えるには、従来の科学的ルーティンそのものの見直しもさることながら、同時に、科学者一人ひとりの心の有様 (エチカ) を振り返ることの大事さ。島国コミュニティーの一員として、もう一度、科学者が、自らの思考の文脈を多角的に見つめ直すことの大事さ。そのために、《文字》の思考と《数字》の思考、その長所・短所の理解に努めることの大事さ等を強く思う。そのささやかな《呼びかけ》として、本報告書が、多くの科学者の目に留まることを心より念じている。



- ・研究代表者：手島 勲矢
元同志社大学大学院神学研究所教授
- ・研究年度：2008～2010年度
- ・書籍版：本文頁数：320頁
- ・価格：3,800円 (税込)
- ・ISBNコード：
978-4-906671-85-3



高等研研究成果報告の紹介

高等研報告書 3 編を刊行

紹介

紹介③ No1103

Towards a Reinterpretation of Japanese Economic History : Quantitative and Comparative Approaches

日本経済は1980年代には2度の石油危機を乗り越えて海外市場、とくに欧米市場で強靱な国際競争力を発揮した。ところが、80年代後半のバブル経済をへて90年代に入ると一転して「失われた10年」を経験することになった。それまで日本経済・日本産業の強靱性の根拠とされてきた日本型経済システム・日本型企业システムも一転して厳しい批判の対象となり、90年代後半から次第に顕在化し、21世紀に入ってからは日本型経済システム・日本型企业システムの見直し＝「構造改革」が大きな政策目標となった。さらに進んで今日ではまた「構造改革」の行き過ぎが問題となり、雇用不安を背景にして日本型経済システム・日本型企业システムを再評価しようとする論調も見られるようになった。

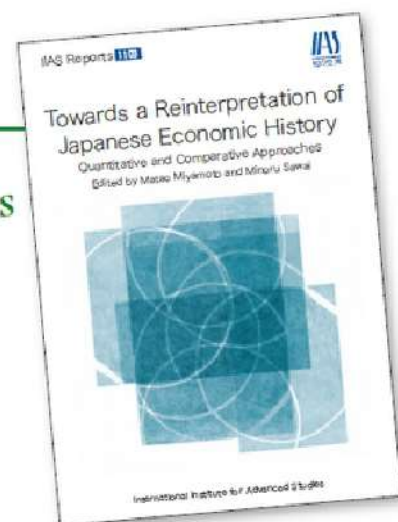
このようにこの30年、日本経済・日本産業に対する評価は激しい振幅を示してきた。しかし、眼前の経済的パフォーマンスに左右されて、自国経済に対する評価を変化させることから脱却して、今こそ近現代における日本経済の経験を学術的に検討することが必要である。本研究プロジェクトは、国際比較と数量的分析を主軸として世紀単位の長期的な視野から日本経済・産業の特質を多様な視角から分析し、この歴史的アプローチの中から政策的インプリケーションについて手がかりを得ることを目的として企画された。

2007年度の宮本フェロー研究会を助走期間として、2008—2010年度の3年間にわたって続けられた本プロジェクトでは合計45本の研究が報告された。取り上げたテーマは、マクロ、セミ・マクロ、ミクロ、組織・戦略、制

度など多岐にわたり、今日の経済史・経営史研究の重要テーマのほとんどをカバーしたといえ

る。この研究プロジェクトの成果は今後の日本経済史・経営史研究に大きなインパクトを与えるのではないかと自負しているが、とくに、近世経済における市場経済的要素の成熟、従来のイメージを払拭する頑健かつ合理的経済主体としての農家経済や活力ある中小企業、それらを支えた制度的条件、日本の製造業におけるインクリメンタルな技術進歩や熟練形成などについて、斬新な分析と知見がえられたと考えている。

日本型経済システム、日本型企业システムの行く末について、国際的関心が高まっていることを考慮して、われわれは、この研究プロジェクト成果の公表を英文で行うことにした。全研究報告を5つのサブ・テーマ別に分類し、サブ・テーマ毎にプロジェクトの研究成果を総括する論文を収録し、さらに、全研究報告の要約を収めた。読者の反響を期待している。



- ・研究代表者：宮本 又郎
大阪大学名誉教授
- ・研究年度：2008～2010年度
- ・書籍版：本文頁数：156頁（英文）
- ・価格：1,600円（税込）
- ・ISBNコード：
978-4-906671-86-0



事務局だより ～新年度を迎えるにあたり～

専務理事及び理事・事務局長の交代

第70回理事会の決議を踏まえ、2012年4月1日付けで、専務理事が西村 耕一から岡橋 誠に交代しました。また、事務局長が理事・佐藤 行則から貝田 辰雄に交代し、常務理事に就任しました。

事務局組織の変更

法人運営及び事業運営について、効率的かつ実効性の高い事務機能を発揮できるように事務機構を再整備することとし、2012年4月1日付けにて従来の事務局組織を改め、総務部、経理部及び研究企画部の3部に再編しました。

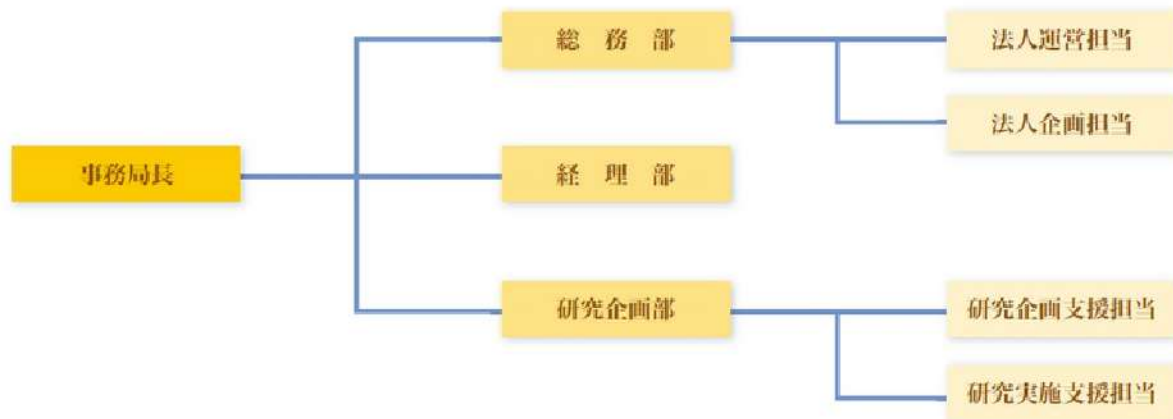
業務日及び業務時間の変更

平成24年度（2012年4月1日以降）から、業務日を従来の「祝祭日を除く毎週火曜日から土曜日」を改め、「**祝祭日を除く毎週月曜日から金曜日**」に変更し、年末年始の休日は「12月29日から翌年1月3日まで」としました。

また、業務日の変更に併せて業務時間を変更し、始業時間を30分繰り上げて「**午前9時から午後5時30分まで**」としました。

以上の詳細は4/1以降の高等研WEBサイトに掲載していますのでご覧ください。

<http://www.iias.or.jp/>





研究活動実績 (1月1日~3月31日)

報告

研究プロジェクト	開催日	研究代表者	参加者数
諸科学の共通言語としての数学の発掘と数理科学への展開	1月5日(木)~7日(土)	高橋 陽一郎	6
2011年度第3回研究企画会議	1月13日(金)	尾池 和夫	5
2011年度第3回研究推進会議	1月13日(金)	志村 令郎	9
法と倫理のコラボレーションー活気ある社会への規範形成ー	1月27日(金)	服部 高宏	13
心の起源(幹事会)	1月28日(土)	松沢 哲郎	9
心の起源	1月28日(土)~29日(日)	松沢 哲郎	38
21世紀における文化としての設計科学と生産科学	2月3日(金)~4日(土)	岩田 一明	10
天地人ー三才の世界:宇宙・地球と人間の関わり合いの新しいリテラシーの創造	2月3日(金)~4日(土)	尾池 和夫	15
ジオ多様性研究会(於:京都大学)	2月10日(金)~11日(土)	尾池 和夫	29
交渉学の可能性ー新しい世界の関係構築と紛争の予防のために	2月17日(金)~18日(土)	松岡 博	10
単分子エレクトロニクス現状認識と近未来実現へ向けての中核体制構築	2月17日(金)~18日(土)	夢田 博一	20
フォーラム「複雑系情報の社会への発信システム」(海洋研究開発機構共催) (於:海洋研究開発機構)	2月19日(日)	尾池 和夫	12
ケアを基盤とする社会保障システムの新たな構築	2月24日(金)~25日(土)	西村 健一郎	15
法と倫理のコラボレーションー活気ある社会への規範形成ー	3月2日(金)~3日(土)	服部 高宏	19
第20回「コンピューショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)ワークショップ」	3月6日(火)~10日(土)	赤井 久純	79
メタマテリアルの開発と応用(於:東京大学)	3月9日(金)	石原 照也	31



高等研就業カレンダー(4月~6月)

カレンダー

4

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

注) 2012年4月より、業務日が祝祭日を除く月曜日から金曜日に変更になりました。